

# 地域づくりへ基本構想

仙台でシンポ

## 東経連、概要を説明



東北誘致

【仙台支社】先進7カ国(G7)財務相・中央銀行総

裁会議の仙台市開催を記念するシンポジウム「国際リニアコライダー(ILLC)と東北の創造的復興」は12日、同市内のホテルで開かれた。主催の東北経済連合会はILLCを軸とした地域づくりのため策定中の「グラ

ンドデザイン」の概要も説明し、計画実現の意義を内外に発信した。

【関連記事4面】

東経連は昨春秋、ILLC実現を見据えた地域づくりの基本構想としてグラウンドデザインの策定に着手。概

◇東経連のグラウンドデザイン概要の主な取り組み

予備準備期間 (2016~18年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外への東北の食文化発信とブランド化の着手</li> <li>地場企業のILLC建設参入を見据えたマッチング</li> </ul>
準備期間 (19~22年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>域外からの受け入れ態勢の検討</li> <li>関連施設への木材利用促進など木材需要の創出</li> </ul>
ILLC建設期間 (23~31年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人研究者や家族の生活や教育などの充実</li> <li>ILLC技術の他産業への応用促進</li> </ul>
運用開始期間 (32年~)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の学生を受け入れ、次代を創造する人材育成拠点を狙う</li> <li>国際コンベンションセンターの形成、ユネスコサテライトの本格開始</li> </ul>

要では、「イノベーション(技術革新)による質の高い東北暮らし」を掲げ、その実

に示した。

6月の東北ILLC推進協議会の総会で正式に報告され、同協議会は受け入れ態勢の強化を図る。

講演で、同デザイン検討委員長を務める早稲田大の伊藤滋特命教授は「東北は固い岩盤に恵まれ、優秀な研究者を出してきた歴史があり、精密な加速器をつくる技術力がある」と説いた。

その上で「経済効果もさることながら、世界の知恵を新しいレベルに上げられる。それに貢献すれば日本に勝るものはない」と誘致実現に意欲を示した。

パネル討論では、東北大の研究者ら4人と千田精密工業(奥州市)の千田ゆきえ取締役が意見交換した。

G7は20、21の両日、仙台市を中心に開かれ、同協議会は19日のレセプションでILLCの特設展示や資料提供を行う。シンポジウムで、同協議会理事の奥山恵美子仙台市長は「開催地としては東北の復興を大いに発信していきたい。創造的復興を考えればILLCに勝るものはない」と誘致実現に意欲を示した。